

平成30年2月8日

第2回学校保健委員会 15：45～

テーマ『今年度の保健室の取り組みについて』

『今年度の給食室の取り組みについて』

『本校におけるアレルギー対応について』

〈質疑応答〉

・保健室に来室後、即入院になった生徒はどのような状況で来室したのか？

→熱がこもりやすい生徒ではあったが、通常に対応を行っても熱が下がらず、保護者の迎えにより下校した後、病院を受診したところ感染症であることが判明し、入院した。

・エピペンの使用方法や、アナフィラキシーの深刻さや起こした生徒への対応などについて、教職員はどの程度認識があるのか？

→現在エピペンを所持している生徒は本校にはいない。しかし、今後その使用方法等の研修を実施することで教職員の認識を高め、エピペンを所持する生徒への対応に備えていく計画である。また、本校においてアレルギーのある生徒に対しては、複数の教員が給食献立成分表をチェックする体制を新たに見直し、4重の確認ができるようになっている。朝の職員朝礼においても各学部でその日の献立で、どの生徒がアレルギーであるのかを確認する時間を設けている。またアナフィラキシーショックは食物によってのみ起こるというわけではないため、その点においても教職員の認識を高めていく必要があると考えている。

・（教員側より保護者（PTA）に）子どもの体重管理等で工夫されている事は？

→食べる子食べない子に関係なく食欲など体重の増減に関わる部分は、睡眠等の生活リズムと密接に関わっているので、生活習慣やそのリズムを整える事を心がけている。また筋肉量や、他にも様々な要因（ホルモンバランス、消化器の問題など）が関わっている上に、病気が起因している可能性もあるため専門家に任すことも大事な手段の一つと言える。

・（教員側より）就学を控えている子どもに対して、保健所（保健師）として何か特別に取り組まれている事はあるのか？

→子どもを預けるにあたって自分の子どもの細かな配慮点（アレルギー対応など）の伝達が上手くいくのか不安に思われている保護者の意見をよく聞くため、今後はそういった不安を解消できる仕組みが学校に整えられているという事を保護者に伝えていきたい。